

経営比較分析表（令和5年度決算）

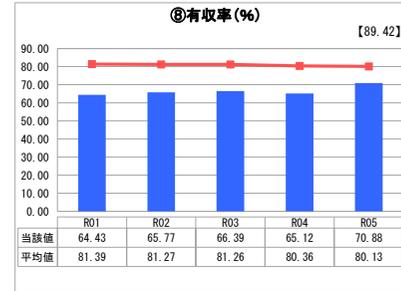
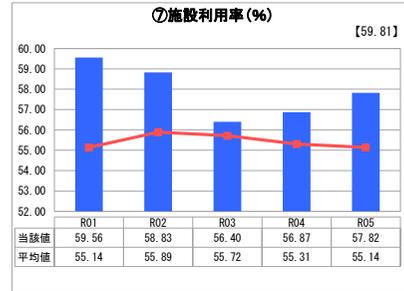
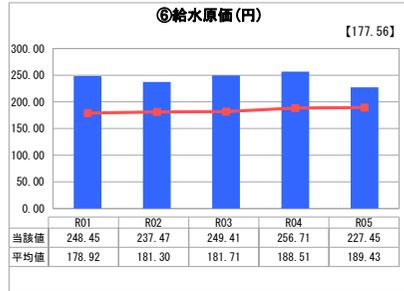
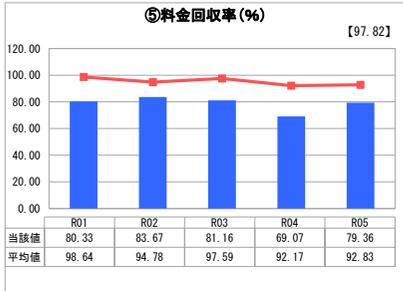
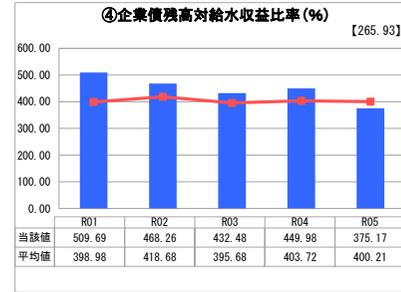
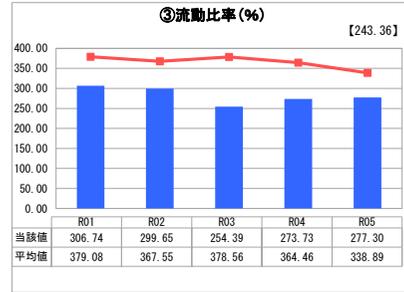
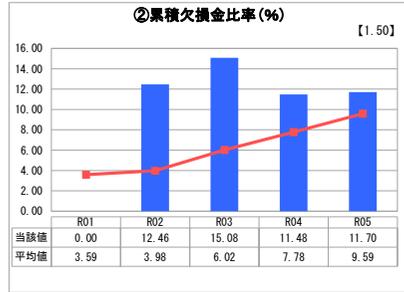
長崎県 壱岐市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.91	99.80	4,240	

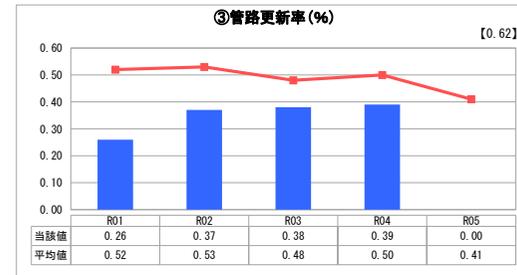
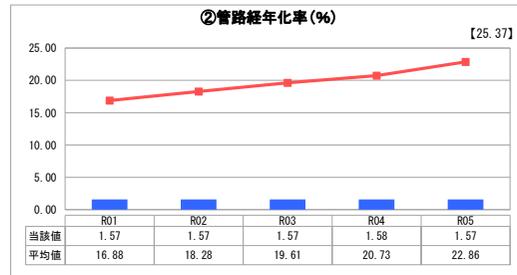
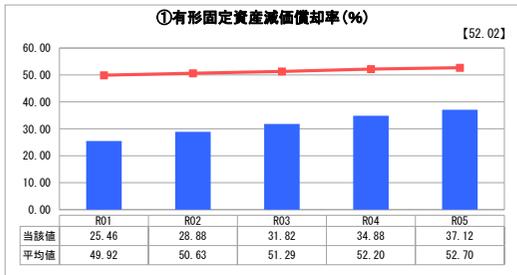
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,360	139.42	174.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,946	133.93	178.79

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①②各種費用は増加傾向にあるが、水道料金は据え置いたままであり、一般会計からの繰出金を充てても赤字である。

③流動比率は200%を超えており、減少傾向にもないため支払い能力に問題はないが、今後も同程度の比率を維持するための検証が必要である。

④完済により前年度より一旦減少したものの、今後はさらに増える見込みである。

⑤平均値を下回っており、近い将来、料金改定の必要がある。

⑥有収率が低いために平均値を上回っている。今後、有収率を向上させる必要がある。

⑦施設利用率は平均値を上回っているが、今後の人口減少を踏まえ、施設の統廃合・ダウンサイジングを検討する時期にきている。

⑧依然として平均値を大きく下回っている。今後は継続的な漏水調査、老朽管の更新を行う。

2. 老朽化の状況について

①②③のいずれも平均値を大きく下回っているが、これは統合簡水分の管路経過年数について正確に把握できていない部分があることが要因と考える。

今後は管理資産精度の向上及び、老朽管の計画的・継続的な更新が必要と考える。

全体総括

簡水を統合した事で経営状況が悪化し、平均値を下回る箇所（項目）が見られるため、経常収支比率や有収率の向上等、更なる経営健全化を図る必要がある。

また、今後は老朽施設・管路等の設備更新を実施する必要があり、水道料金の改定を含めた財源の確保が重要課題である。